

【成果情報】

〔技術名〕

半促成イチゴ新品種「おぜあかりん」の特性

〔要約〕

「おぜあかりん」は、「盛岡26号」に群馬県育成系統を交雑して育成した半促成栽培用イチゴ品種である。果皮、果肉ともに硬く、上物収量が多く、食味に優れ、群馬県北部の中山間地が栽培に適している。

〔場所担当係・センター名〕

群馬県農業技術センター・園芸部・野菜第一係

〔連絡先〕

電話 0270-62-1021（代）

〔背景・ねらい〕

群馬県のイチゴ半促成栽培は、県北部の中山間地で取り組まれており、品種は9割以上「尾瀬はるか」が用いられている。「尾瀬はるか」は収量が多く、食味が優れているが、果色が淡く、果皮が軟らかい等の欠点がある。また、日照不足等で白ろう果が発生しやすく、産地から果実品質の優れた半促成イチゴ品種の育成が要望されていた。そこで、県北部中山間地の半促成作型に適したイチゴ品種を育成する。

〔技術の内容・特徴〕

1 育成経過

平成10年に「盛岡26号」を子房親、果肉が硬く、果色が濃赤色で大果な群馬県育成系統「9702-375」を花粉親として交配した。得られた実生個体のうち、評価の高かった系統を平成19年に系統名「群馬15号」として選抜し、平成20年に「おぜあかりん」と命名した。

2 「おぜあかりん」の特性

- (1) 4月上旬～7月中旬を収穫期とするハウス半促成栽培に適する。
- (2) 果形は短円錐、果皮色は濃紅色で、果実にやや空洞が認められる（表1、写真1）。
- (3) 果実は「尾瀬はるか」よりも硬く、糖度は収穫始期には同程度であるが、5月以降になるとやや高くなる。酸度は「尾瀬はるか」より高い値を示す（表2、図1）。
- (4) 収量は「尾瀬はるか」に比べ少ないが、上物収量は、奇形果割合が低く、白ろう果の発生も認められないことから、「尾瀬はるか」と同程度と見込まれる（表2）。
- (5) 「尾瀬はるか」に比べてうどんこ病とハダニがやや発生しやすい。

〔普及指導上の留意点〕

- 1 収穫後半に小玉果が多くなる傾向があるので、1花房あたり花房先端の小花5花を摘花し、10～13花程度残す。
- 2 うどんこ病やハダニの適期防除に努める。
- 3 群馬県北部の中山間地域が栽培適地である。
- 4 栽培するには群馬県の許諾が必要で、県外許諾は、当面の間は行わない。
- 5 品種登録番号20812号

[具体的データ]



写真1 「おぜあかりん」の着果状況

表1 生育および果実特性

品種名	草丈 (cm)	葉柄長 (cm)	果形	果皮色	果肉色	そう果の 落ち込み	果実の 空洞	果実の 光沢	色		果形 長3、中2、 短1	食味 良5～悪1
									濃3、中2、 淡1	長3、中2、 短1		
おぜあかりん	28.2	19.8	短円錐	濃紅	淡紅	小	小	やや強	2.3	1.7	2.7	
尾瀬はるか	22.4	18.1	円錐	淡紅	橙赤	中	極小	中	1.6	2	2.1	

表2 収量および果実品質 (H20 4/9～7/17)

品種名	収穫果数 (個/株)	一果重 (g)	収量 (g/株)	上物率※ (%)	上物収量※ (g)	硬度(N)	糖度 (Brix%)	酸度(%)
おぜあかりん	54.2	17.9	969	86	833	8.2	9.5	0.9
尾瀬はるか	53.5	22.0	1,178	75	883	7.2	8.5	0.7

※上物：県出荷規格の2A、Bを除いたもの

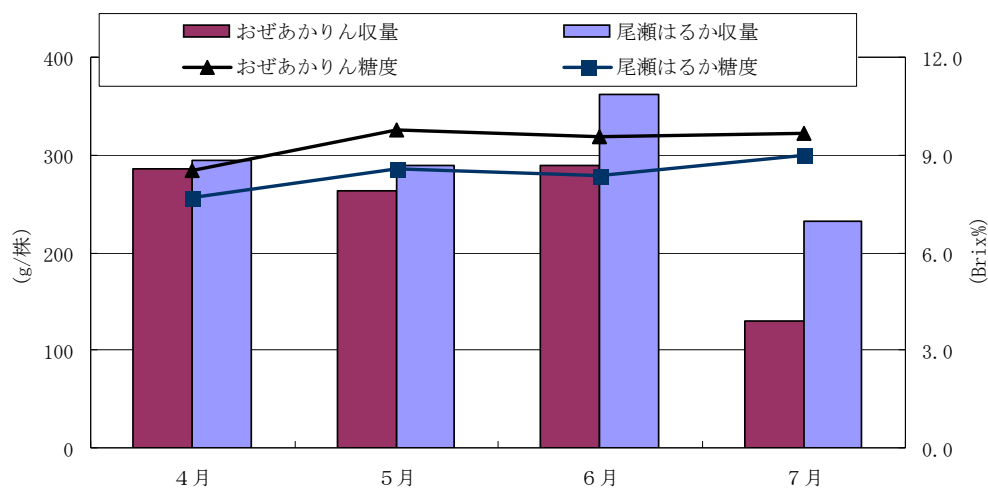


図1 「おぜあかりん」の月別収量および糖度推移 (H20 4/9～7/17)